

コウヨウザン植栽実証試験地

森林技術・支援センター

コウヨウザンはヒノキ科コウヨウザン属の常緑針葉樹で、中国中部から南部や台湾に分布します。湿潤、肥沃で排水性の良い土壌を好み、中国や台湾では多く植林されています。日本には江戸時代に渡来したと言われ、神社仏閣等に植樹されてきました。

また、西日本では早くからスギ、ヒノキ主体の造林樹種を選択肢を広げるため、壮齢では強度がヒノキ並で、初期成長が早く、材積成長量が大きい早生樹として、コウヨウザンの植栽試験が四国、九州森林管理局の国有林や大学の演習林、広島県の民有林等で行われています。

一 現状と課題

コウヨウザンはスギに比べても成長が早いことから、植栽本数を減らした低密度植栽や下刈り回数削減に資するものとして期待されています。

また、コウヨウザンは、集成材等の木材加工に不可欠な、圧縮強度や耐朽性等があることが解明されています。

このような中で森林総合研究所林木育種センターは、スギやヒノキ、

カラマツ以外の造林樹種として、高強度、高成長を示すコウヨウザンの優良系統苗の選定と改良の研究を行っています。その中で、関東地方などでも十分成長することが明らかになってきたため、平成29年度から森林技術・支援センターとの共同研究として茨城森林管理署管内の国有林に植栽試験地を設定しました。



コウヨウザンの樹皮と枝葉

二 植栽試験の目的

コウヨウザンの品種別に実生苗・さし木苗を林地に植栽して、活着状況・成長調査を行い、系統評価を行うとともに、植栽密度、下刈りの必要回数、主伐期林齢などの育林技術の検証を行っています。また、関東森林管理局管内でのコウヨウザン植栽

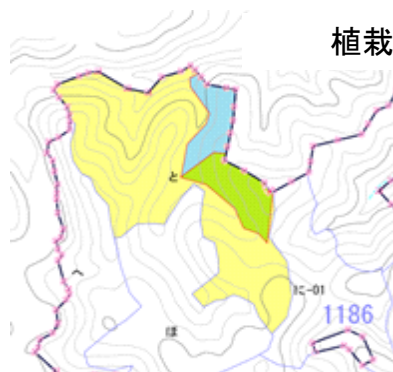
地の見本林とすることになっています。

三 植栽試験の方法

植栽試験地は、茨城県日立市十王町高原小松沢国有林一八六と林小班に設定し、面積は1.43haです。
 ① 平成29年度は、面積0.81haの系統評価試験地を設定し、コンテナ実生1年生苗14系統、コンテナさし木1年生苗5系統、実生1年生裸苗8系統、さし木2年生裸苗3系統を7ブロックに約800本植栽しました。植栽密度は1500本/haとし、調査ブロックの周囲には周囲木約400本を植栽しました。
 ② 平成30年度は、植栽密度試験として、面積0.62haに当たり1000本、1500本、2500本を植栽するブロックを設定し、実生2年生の裸苗を5月中旬に植栽しました。
 ③ 調査項目としては、植栽直後に活着状況、植栽当初の樹高、根元径を調査し、その後、毎年成育シーズンを終了後に生存状況及び成長量調査を継続して行っていきます。
 ④ 調査データは統計的な手法を用いて分析し、成長特性が優れた品種の確認や、植栽密度による成長特性の解明、下刈り回数の検証などを行っていきます。



セリ(芹)
 約30cm。春の七草のひとつだが花は夏に咲く。
 鏡川合流のように群生することから「セリ」の名がついた。



植栽試験地



(緑色) 平成29年度植栽箇所
 (水色) 平成30年度植栽予定箇所